

'93.4 ~ '94.3

顔 顔



11月 一人ひとりの笑顔が溢れる学校行事

秋は運動会のシーズン、先生に手を貸す子供たちが元気な様子 (里保育院)



大きくなったらまた南国市に来てね。浜改田の海亀無事にお化。十市小の子供たちが放流しました。



十月十三日、高知農業高校で行われた「おいしくお米を食べる交流会」。真剣なまなこで指導を受ける高校生の、手つきの良さを感心しました。



おいしそうにケイ化を食べる小野岩沼市長。



八月には敦賀市から市民親善交流団八十五人が来高。まほろば祭りに参加したり、南国市民と交流を深めていきました。

1.15 成人式。若者のパワーに圧倒されました。これからの南国市を背負って立つ皆さん、頑張ってください。



11月11日 本谷村龍馬祭。竹のおわんに入ったしゃも鏡をほおぼる親子、おいしかったかな？



夏(長瀬高野のせい)い、おもしろいと思えたお祭りでした。その後も晴れ間が広がった日には、巨峰園も家族連れらでにぎわいました。

顔



6.5 たいこうまつり

作。北野神社の境内で遊ばせました。

業、新しい施設の落成、祭りやいろいろな催しがありました。記録写真など、この1年間のみ

姉妹都市提携20周年記念事
各地域のちょっとした出来事ま
そんな催しでのスナップ、また、
なさんの顔を紹介します。



4.30 高齢者多世代交流プラザ落成式で。

4.17 高知市出生を認めて金生活改善推進委員会の開会、「どらどら」と発足の手元をそのときをむ。

「まかいちよけや！」
7.20 片山天満宮宵祭り。金魚すくい、夏祭りらしい光景



結婚シーズン。今年は何組がゴールイン？



夏の初め、幼稚園で、おもしろいお祭り。仲良く遊んでいた元は。



進合議会の開会式で。



7月 浜改田保町交差点



1月17日 市内4農協が合併に向け仮調印。

11月8日天皇・皇后両陛下ご来高。保健福祉センターで市民らと談笑。

10月 健康文化都市モデル市に指定。(写真)健康文化都市国際フォーラム



8月5日 高知ガジオ 2棟目の工場落成。

6月1日 空港再拡張問題で、地元地産者らが基本的合意。

4月 保健福祉センターオープン。

土佐日記門出のまつり



土佐日記門出のまつり。右は、土佐日記門出のまつり。左は、土佐日記門出のまつり。

土佐日記門出のまつりでは、国府中継にちなんだ俳句、短歌を募集していましたが、多数の応募がありました。その中から選ばれた作品を紹介いたします。

（俳句） 橋田應明 池 城草

内裏てふ宇の田の畦焼きにけり
貫之の門出せし野に若菜摘む
どこからも見えて刈田の紀氏御跡
金堂へ焚火げむりの憚らず
しぐれ虹舟出の無事を祈るがに
紀氏御跡見えりて道し松野狂
大星根に少休の小さく落葉掃く
冬木立碑ひそと紀氏御跡
温室の光の届く紀氏御跡
紀氏御跡見えりて道し松野狂
若菜摘む人を遠くに紀氏御跡
移りきて心礎の水に黄鶉鳴
寺遷る三三五五は若菜摘
野火燐燐より暮らる紀氏御跡
比江山の裾野遊りぬ若菜摘
若菜摘む貫之まつり近づく野
まぼろしの塔の上で鳴く冬雪雀
若菜摘む人のゆききの紀氏御跡
比江山のふとこる広き冬田かな
枯野の碑いづれも紀氏を讃へ古る
紀氏御跡枯野の春日酒れる
比江山の山一頓具焚火跡
句碑に日の當れば匂ひ水仙花
初詣紀氏御跡まで足伸ばし
天平の礎石を囲み冬菜摘
貫之にゆかりの入江千鳥翔つ

選



①田んぼのあいだをパレード。なかなかの風情。②身だしなみを気にする？大町貫之。③古式ゆかしい雅楽の調べ。三朝文化の雰囲気を感じます。④人気の平安人の食コーナー。⑤貫之がゆを侍女たちにふるまう貫之。

（短歌） 安岡正隆、常山進、佐藤いづみ 選

郵路に冬陽沈みてつらゆきの
ふておと程の風ききまつりつ 前田港美子
つらゆきの舟出のおりもひかりしか
比江の上より朝露のたつ 今井嘉彦
比江山を越えつつ生るる冬の虹
平成の世の白鷺わたる 町歌子
門出を見送る術も知らざりし
農夫の骨が立つ紀子御座 牛村昭男
冬枯れの紀氏御跡に返り咲く
燈のごときたんぼの花 山下ゆみえ
遠き世に貴人も横みしやまほろばの
国府の里に萌ゆる若草 葛目治子
貫之がふるさと恋いて佇みし
国府への道いま夕明かり 依光ゆかり
忘れ貝拾わず愛らし貫之の
宿の小松にかけしかなしる 酒井保
寒らざる指地に四方の曼ふ状
まほろばの二期作黄金色づく 細川花美
比江山は深く眠りてふところ
落葉を蹴し上に還すも 猪原あやめ
土佐日記あみし貫之の故事を世に
社ふ門出のみまつりぞ今日 増岡正幸

粉粧の大町市長へ貫之も
ニール送らんききくにより 岡村めづみ
柔き冬日を豌豆の掴むひる
比江の里ゆく初荷のくるま 町歌子
内裏とうるる残れる国府野に
曲水宴とおぼしき流れ 岩貞健一郎
まほろばの道の標のやさしくて
紀氏の碑冬日にぬくし 岩貞健一郎
手拭の糊びんと立ち作務嬢
律儀に守る若浄土かも 猪原あやめ
平安の世の上世に生れ平成の
今に読み継ぐ此のおむな日記 竹村昭男
国府の碑は若むしぬ「未遠く」
やうやく読みてみ空を仰ぐ 中島由美子
千年をへだてて吹きくるこの風が
国府の跡をふわり撫でゆく 依光ゆかり
国司紀氏去りて千年華の香を
惚ぶ礎石に小鳥遊びて 柚木村香子
土佐のくにまほろばの道たどり来て
国府跡の上に触れみる 山下ゆみえ
別れがたく貫之の道ひて来し人ら
声合はそ歌ふは鹿見等の礎 古川寛子



（俳句） 橋田應明 池 城草

内裏てふ宇の田の畦焼きにけり
貫之の門出せし野に若菜摘む
どこからも見えて刈田の紀氏御跡
金堂へ焚火げむりの憚らず
しぐれ虹舟出の無事を祈るがに
紀氏御跡見えりて道し松野狂
大星根に少休の小さく落葉掃く
冬木立碑ひそと紀氏御跡
温室の光の届く紀氏御跡
紀氏御跡見えりて道し松野狂
若菜摘む人を遠くに紀氏御跡
移りきて心礎の水に黄鶉鳴
寺遷る三三五五は若菜摘
野火燐燐より暮らる紀氏御跡
比江山の裾野遊りぬ若菜摘
若菜摘む貫之まつり近づく野
まぼろしの塔の上で鳴く冬雪雀
若菜摘む人のゆききの紀氏御跡
比江山のふとこる広き冬田かな
枯野の碑いづれも紀氏を讃へ古る
紀氏御跡枯野の春日酒れる
比江山の山一頓具焚火跡
句碑に日の當れば匂ひ水仙花
初詣紀氏御跡まで足伸ばし
天平の礎石を囲み冬菜摘
貫之にゆかりの入江千鳥翔つ

白石はる子
中西克喜
高橋神花
和泉修司
門田三吉子
長野福美
川窪美千
内田俊弘
岩城虎水
東村耕牛
山中覚
藤田まさ子
徳弘久
西木温子
樋口愛
石原のぶ
浜田順子
菅石昌男
大島新草
高橋社
高橋三喜子
佐々裕子
竹内隆造
片岡包女
西川賢太郎
高橋鬼史
小島強子
川村雪子
橋本純子

選